

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二中学校（S組）

<p>目指す授業</p>	<p>○既習内容を活用する活動を充実させ、学習内容を定着させる授業 ○学習内容に関する生活に即した知識を増やし、その知識の活用方法に具体的なイメージをもたせる授業</p>		
<p>教科</p>	<p>① 生徒の実態・課題</p>	<p>② 授業改善の取組</p>	<p>③ 取組結果</p>
<p>国語</p>	<p>○拗音、促音、濁音の表記や助詞の使い方が定着していない生徒がいる。 ○漢字に苦手意識のある生徒が多く、定着していない。 ○意味を知らない語彙が多く、日常生活で使用する言葉の意味を理解できないことがある。</p>	<p>○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、拗音、促音、濁音の正しい表記の仕方や助詞の適切な使い方を身に付けさせる。 ○日常的に使用する漢字の書き取り練習を繰り返し行い、漢字を使用する意識を育てる。また、漢字の課題を宿題や長期休業中の課題にすることで、知識を定着させる。 ○ことわざや慣用句などの言葉の学習を通して、語彙の知識を定着させる。</p>	<p>○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、語彙の正しい表記の仕方を身に付けた。助詞の使い方については、適切に使おうという意識があるが、定着が十分ではない。今後も継続して定着を図る必要がある。 ○漢字の課題を通して、日々の日記や学習で、漢字を使うことが増えた。 ○言葉の学習を通して、意味を知る語彙の量が増えた。今後も継続して取り組み、語彙の知識をより定着させる必要がある。</p>
<p>数学</p>	<p>○視覚化された内容であれば理解できても、それを応用することや、計算を実生活の場面で活用することに課題がある。 ○計算問題については自信のある生徒が多いが、文章題などの理解が難しい生徒が多い。 ○小数、分数の計算など、小学校の学習内容に不安をもつ生徒が多い。</p>	<p>○日常生活の場面を想定した問題に取り組みせ、ロールプレイ形式を取り入れて学習させる。 ○かけ算表や電卓など、個の学習状況に応じて、活用する手だてを学ばせる。 ○タブレットPCを活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、計算パズル等に取り組みせたりすることで、楽しんで学習させる。 ○個の学習状況に応じて段階的にプリントを用意し、基礎的な計算力を身に付けさせる。</p>	<p>○日常生活の場面を想定した問題に多く取り組みせることで、お金の計算や時間の計算をする力が向上した。 ○タブレットPCを活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、具体物の操作やロールプレイ形式を取り入れたりすることで、計算の概念を理解させることができた。そのことが文章題の理解にもつながった。 ○基礎的な計算については、個別の課題等を用意し、今後も継続して定着を図る必要がある。</p>